



# STOP!! 糖尿病



十和田市立中央病院 糖尿病ケア通信 H29年度 第9号

## 糖尿病における臨床検査の重要性

糖尿病は「検査の病気」と呼ばれています。糖尿病は高血糖によって引き起こされる病気ですが、自覚症状があまりなく、気づいたときには重い合併症（神経障害、網膜症、腎症など）を患っている場合があります。糖尿病の予防や進行を食い止めるためには、血糖値をはじめとするご自身の臨床検査の結果を日頃からチェックして、良好な血糖コントロールを保つことが大切です。以下、当院の糖尿病教室（臨床検査科担当）の資料を抜粋して掲載します。

### 糖尿病をよく知るための検査

**空腹時血糖値（くうふくじけつとうち）**  
 10時間以上何も食わずに（水は飲んでOK）、測った血糖値です。血糖値が一番低くなるタイミングの値です。126mg/dL以上で糖尿病の疑いがあります。

**随時血糖値（ずいじけつとうち）**  
 食事の時間と関係なく測定した血糖値です。200mg/dL以上で糖尿病の疑いがあります。

ハモグロビン + ブドウ糖 → ハモグロビンA1c

**HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）**  
 ハモグロビンは酸素を全身に運ぶ役割があります。このヘモグロビンが全身をめぐらうちにブドウ糖と結合したものが**HbA1c**です。HbA1cは採血の1~2か月前からの血糖の状態をあらわすので、採血の1~2ヶ月前から食べ過ぎや運動不足で高い血糖値が続くとHbA1cが高くなります。6.5%以上で糖尿病の疑いがあります。

**尿糖（にょうとう）**  
 尿の中に含まれるブドウ糖のことです。基準範囲（-）  
 高血糖状態（180mg/dLくらい）が続くと、尿にもブドウ糖が出てきます。

**ブドウ糖負荷試験（OGTT）**  
 10時間以上何も食べない状態の後でブドウ糖を溶かした水のみ、決められた時間に採血をして、血糖値の変化やインスリンの出具合を調べます。

（お知らせ）2018年2月27日（火）17:30から当院別館2階講堂にて糖尿病に関連する検査について研修会を開催いたします。興味ある方は是非ご参加ください。

（文責：十和田市立中央病院 臨床検査科 前山 宏太）